

中部の教育

「こころ」は、本日は堀川水上バスへの「乗船、まじこ」がありとうとうございます。私は名古屋学院大学経済学部3年の樋和寛と申します。皆様の「乗船中、観光ガイドを担当します。一生懸命務めさせていただきますので、よろしくお願ひします」

4月に愛知県瀬戸市から3学部が名古屋熱田区に移転した名古屋学院大。5000人が学ぶ白鳥キャンパスは白鳥公園に隣接し、すぐそばを堀川が流れる。その堀川で運航される水上バスの観光ガイドに、同大経済学部の学生16人が今年、初めて挑戦した。

16人は水野晶夫准教授(44)の「地域活性化研究」の授業を受講する樋君ら2、3年生たち。水野准教授の研究室は昨年9月の「第4回堀川ウォーターマジックフェスティバル(WMF)」(国土交通省中部地方整備局、名古屋市など



教育ニュース

地域貢献で成長する学生



堀川水上バスでガイドをする名古屋学院大生(10月の熱田区民まつりで)

船した学生たちは、名古屋城築城時に作られた人工の川である堀川の建設目的、カッパ伝説、水位の異なる堀川と中川運河をつなぐ松重閘門など、水辺の景色の変化に合わせガイドを続けた。

「講義で学ぶ普通の授業なら、これほどまでに、堀川や名古屋の歴史には興味はわかなかったでしょう」。大半の学生たちが充実した体験を振り返った。「泳ぎ回る魚を見た時、ああ堀川は本当にきれいになっていくんだと実感した」「人とコミュニケーションを取ることがいかに勇気のいることかわかった」と語る学生も多かった。

水野准教授は南区生まれで、大学も名古屋大で学んだ名古屋っ子。名古屋学院大の熱田区への移転が決まった時から、堀川を教材に、地域の歴史、生活、文化を学

「一昔前なら、こうした学ばせ方は、『サークル指導に近い実学で学問ではない』と、認められなかったかも知れない。しかし、今は、学生が大学を選んだ時代。大学が魅力ある教育を提供し、学生に来てもらわなければ」。水野准教授は、全入時代で大学を取り巻く環境が大きく変化している点を指摘。「学生が地域から学ぶ、追い風が吹いている」とも語る。

時代も追い風「堀川学」 水上バスでガイド体験

どで作る実行委主催)で運航された水上バス利用者に感想をアンケート。「乗り降りだけでは味気ない」「この辺を通過しているか分からない」などの声が目立ったことからガイドが発案された。水野准教授の提案に樋君ら16人が志願

「堀川学」に挑戦しようと考えた。「地域の貢献を通じ、学生たちが学んで成長する」という思いを込めて、大学と地域の新たなつながりを追う。

A Good Practice (b)